



アリー。海外協力隊の天野です。アリーはパラオ語で「こんにちは」の意味で、英語のハローにあたります。私が学校訪問で教室に入るとき、「ハロー・エブリワン」と言ったあとにこれを付けると受けがよいようです。逆に生徒の中には「オハヨー」「コニチハ」と返す子もいます。発音のポイントは、一本調子で力強く言うことです。今回はパラオの学校行事の話題です。

アウエアネス・ウィーク

3月11日(月)から14日(木)は、エディケーショナル・アウエアネス・ウィークでした。日本では聞きなれない言葉ですが、教育的啓発週間と訳されます。ここパラオの公立小学校と高等学校では、一斉にこの期間に学校の大きな行事をします。パラオの学校制度は小学校が8年生まで、高等学校が9年生から12年生までです。中学校はありません。

学校によって多少違いますが、学習発表会やスポーツイベント、社会見学などを、4日間連続で行います。日本ではそれぞれ時期をずらしますが、こちらでは集中してやります。日本の学校と違って、これらが全部できてしまうのです。不思議なことに…。

小学校の行事

私は教育省の近くにある3つの小学校を見学しました。

コロール小学校では、パラオにある16の州を学習する活動でした。屋外に設けられた各ブースには、16州の説明パネルが掲示されていました。生徒たちはそれをメモしながら巡回します。ブースには保護者が用意した地元の食品がたくさんあって、それらの試食が子どもたちに人気でした。

校長先生にすすめられて、私もブースを回って食べてみました。驚きました。タロイモ、タピオカの料理だけでも10種類近くあったのです。特に真っ黒な「焦がしたピオカ」は絶品でした。



いちばん右の写真がタピオカのデザート類です。

バナナの春巻き(トローニ)、バナナチップ、パパイヤのピクルス、レゴンというカニをボイルしたもの。これらは子どもたちに好評で、試食を待つ長い列ができていました。バナナの料理も多種多様です。

サシミのココナッツミルクかけ、バナナや米をココナッツミルクでボイルしたもの。ココナッツの中にある白い果肉にココナッツシロップかけたもの。どれも試食してみました。

ミュージズ小学校では、教室でテーマ学習をしていました。3年生はロープワークと調理実習です。

講師は地元の人や保護者たち。パラオは島国なので、船に乗せる荷物を縛ったり船に係留したりする技術は重要です。できない子供が多いので、講師の男性は根気よく教えていました。



調理実習のメニューはボイルド・ライス。中心部の若いヤシの葉を編んで四角い箱を作り、お米を詰めてココナッツミルクで煮立てます。



小学3年生の生徒には、ヤシの葉を編むのが少し難しかったようです。でも器用な子は、ヤシの葉を編んだ首飾りを作って遊んでいました。

ヤシの葉ではいろいろな飾りや籠ができます。色合いも美しいです。

そのほかの日には、英語や数学、科学のゲーム・プロジェクト、ダンスや合唱の発表会、運動会が企画されていました。

GBH(ジョージ B ハリス)小学校は、運動会をしていました。

日本の小学校と同じように、4つの団に分かれて競います。団別に応援もしていました。子どもたちは元気で陽気です。見ていた私の感想ですが、競技とか戦いというイメージでなく、ゲームを楽しむという雰囲気でした。応援の仕方や入場の仕方なども、ゆるいというか、のんびりした感じです。



校長先生から話を聞くと、子どもたちが楽しんでやればよいという方針のようです。椅子にどっかり座って見ているだけの先生も多く、日本の小学校と少し違うなあ… という印象です。

左の写真はボールをラケットに乗せて運ぶ競技で、右の写真は青団の応援。中央の男性の先生は熱心に子どもたちに指導していました。でも周りの子どもや先生たちは座ってジュースを飲んだりしています。パラオで活動している JICA 隊員たちに話をすると、「それは普通のことです」といいました。

この小学校では、その前の週にサイエンス(理科)発表会が行われました。高学年の学生たちは折りたたみパネルを使って、研究テーマの設定理由や研究方法、成果と課題を詳しく発表しました。

高等学校の行事 パラオ高校

高等学校も 4 日間で、ほぼ同じ内容でした。でも雰囲気はかなり違いました。自分たちの手で作る、ゲームやプレゼンテーションを競い合う、そして楽しむ雰囲気がいっぱいでした。

まずは一日目です。

この日は朝からメインストリートを車でパレード。飾り付けをした車と衣装で、テーマをアピールするのです。学校に戻ったあと、代表者がプレゼンテーションをします。それを先生たちが採点します。

プレゼンは聴衆への受け狙いもあって、見ていて楽しかったです。缶ジュースのプル・トップを全身に縫い付けた衣装。「家族」という日本語をプリントしたおそろいの T シャツ。環境保護を訴えるかぶり物。映画トランスフォーマーを模した変身ロボット。高校生らしいアイデアと実行力に感心しました。

そのあとのオープンステージでは、セレモニーやエンターテインメントが続きました。キャンパスではアカデミック・カーニバルやゲームが行われました。英語、数学、科学、そのほかの外国語に関するゲームや展示です。私はダーツをやってみました。スナックや飲み物の販売もしていました。

ステージではプロのバンドが演奏をして盛り上げます。そこで歌やダンスをする学生もいました。日本の私立高校の学園祭、あるいは大学の学園祭のミニ版といってもいいでしょうか。



写真1枚目はプレゼンテーションの様子。2枚目から4枚目は自作のフィギュアやキャラクター。自動車ロボットに変身します。いちばん右は特設されたステージでのバンド演奏の様子。このあと学生たちは自由に歌ったり踊ったりしていました。

2 日目はスパイダー・ジム(パラオ高校の体育館)でのイベントでした。

午前中はチェアー・スクワッド・パフォーマンス、エンターテインメント。午後からはバレーボールと卓球の大会です。チェアー・スクワッドとは、チェアダンスの男女混合チームのことです。パフォーマンスはアメリカ方式で観客が盛り上げます。リズムカルな音楽、大きな手拍子、そして観客からのエール。みんな楽しむエンターテインメント。でも先生たちだけが冷静に見ていました。出場チームの順位を付けなければならないからです。



3 日目はアサヒ球場でソフトボール大会，ナショナル・ジムでバスケットと卓球の大会でした。

ソフトボールは男女混合チームで，男子と同じように女子も打ったり走ったりします。パラオの人たちは野球が好きで，各地に小さなグラウンドがあります。

へき地や離島の小学校でも，よく男女いっしょになって野球をしています。今回のアサヒ球場での大会は，ホームランダービーのイベントもありました。



4 日目は学校から少し離れたロング・アイランド・パークでの活動でした。

パラオ通信 1 号で紹介したように，ここは海辺にあります。カルチュラル・アクティビティ(文化に関する活動)，ソーシャル・スタディ(社会科の学習)のプレゼンテーションなどアカデミックなもの。フィリピン・パフォーマンスや Mr.&Ms.パラオ高校の表彰など，エンターテインメント性の高いもの。スナック菓子やジュースの販売，バーベキューまであります。高校4年生(シニアクラス)が中心なので，大学祭のような雰囲気です。男女のカップルも見かけますが自然な感じがします。



左の写真が4日目の会場です。公園の一角に大型のテントが設営されていました。右の写真は午前
の集会，モーニング・アテンダンスの様子です。学校が招待した人のスピーチやプレゼンテーション，
Mr.&Ms.パラオ高校の表彰などがありました。



集会がない時間は自由です。バレーボールをしたりウクレレを弾いたりするグループ。気の合う人どう
しで話をするグループやカップル。バーベキューをする人や食べる人。それぞれ好きなことをします。
ちょっと大人の雰囲気がただよっています。

いちばん右の写真が本年度の Mr.&Ms.パラオ高校です。2人が座っている椅子は，マホガニー材
で作ったハンドメイドの高級品。100ドルで落札されたと，この集会でアナウンスされました。

終りに

私はアウェアネス・ウィークのことを知りませんでした。はじめて見るものばかりで、このレポートは散逸的になってしまいました。来年はもう少し掘り下げて見ます。パラオ高校はアカデミックなプレゼン、小学校は展示や実習を中心に見学してお伝えします。

この翌日はユース・デイという祝日で、ナイトマーケットの開催日でした。会場では高校生たちがパラオ・ダンスを披露していました。その話はパラオ通信7で報告します。

では次号のパラオ通信をお楽しみに！